

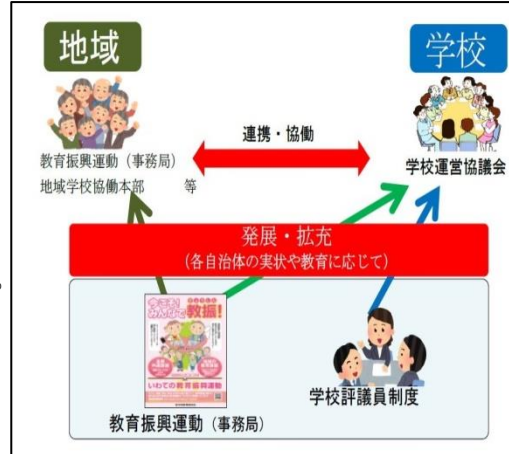
現在の学校評議員制度や教育振興運動はどうするのか？

【学校評議員制度について】

学校評議員制度の役割は学校運営協議会で担うことができます。学校評議員に地域のボランティア、各種団体の代表等を加えて構成を充実させ、学校運営協議会を組織する方法も考えられます。

【教育振興運動について】

本県では、引き続き教育振興運動に取り組んでいきます。地域に根ざし、多様な地域学校協働活動を展開してきた教育振興運動の組織を活用して、学校運営協議会組織に発展させたり、引き続き地域学校協働活動を進める組織として改めて位置付けたりする方法も考えられます。



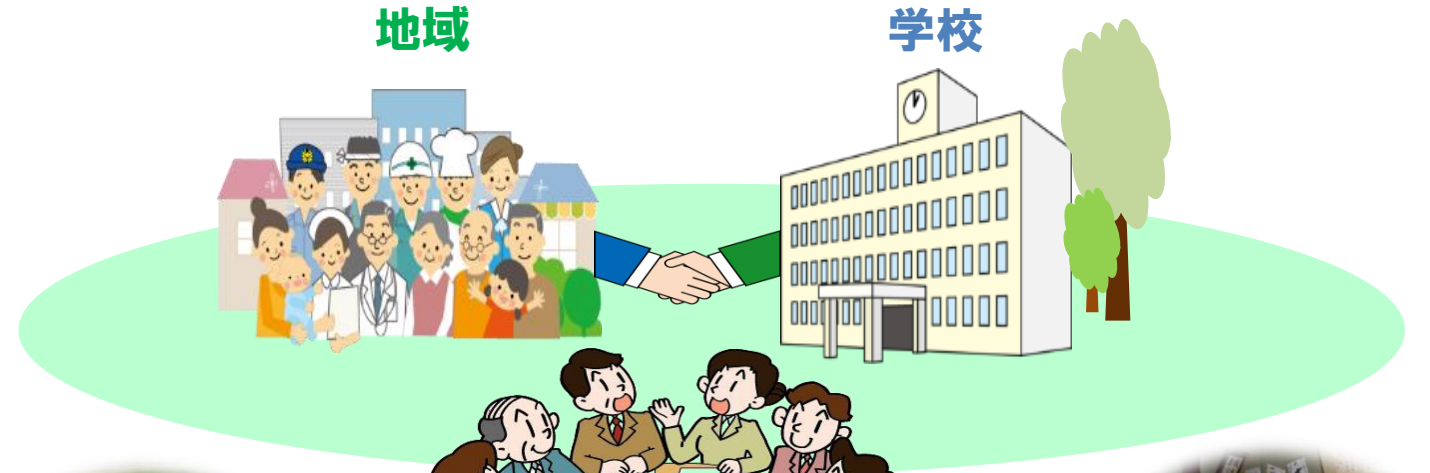
教育振興運動は、県内全ての市町村で取り組まれています。その特色は市町村によって幅があります。学校運営協議会の組織や教育振興運動との関係性等については、各市町村が状況を見極め、主体的に検討・判断していくこととなります。

保護者・地域住民の皆様へ

岩手県

地域と学校がパートナーとなって子供の成長を支える 「コミュニティ・スクール」

のあらし



コミュニティ・スクールで期待される効果は？

幼児・児童・生徒にとって

- 体験活動の充実・学びの広がり
- 様々な方々とのふれあいによる成長
- 達成感や自己肯定感の高まり
- 防犯・防災等の対策による安心安全な生活
など

保護者にとって

- 地域で子供が育てられていることへの安心感
- 学校や地域への理解の深まり
- 地域の方々とのつながりの深まり・広がり
- PTA活動・教育振興運動の充実
など

地域にとって

- 子供の成長に関わる喜び
- 経験を生かすことで得る生きがい
- 地域の方々とのつながりの深まり・広がり
- 地域の防犯・防災体制等の構築
など

学校にとって

- 学校運営のバックアップ
- 多様な人材・組織との協働
- 教職員の地域理解への深まり
- 地域との組織的な連携・協働体制の継続
など

子供たちや学校を取り巻く環境が複雑化・多様化する中、子供たちや地域の輝く未来を創るためには、これまで以上に「社会総掛かり」での対応、学校・家庭・地域による一体的な取組が必要であると考えられます。それを実現可能にする仕組みの一つが、コミュニティ・スクールです。



地域の多様な立場の方々と構成される
学校運営協議会

※校種や各学校等によって必要とされる活動（地域学校協働活動）は異なります。

地域と学校がパートナーとなって子供の成長を支える 「コミュニティ・スクール」のあらし

発行：岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化財課 地域学校連携担当
発行日：令和2年3月
下記ホームページに掲載しています。（※ダウンロード可能）
岩手県生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>



<コミュニティ・スクールに関する情報は…>

まなびねっといわて **検索**

【文部科学省資料】
パンフレットや全国の事例紹介があります。
【岩手県の資料】
参考資料（岩手県版）や県内の事例紹介があります。

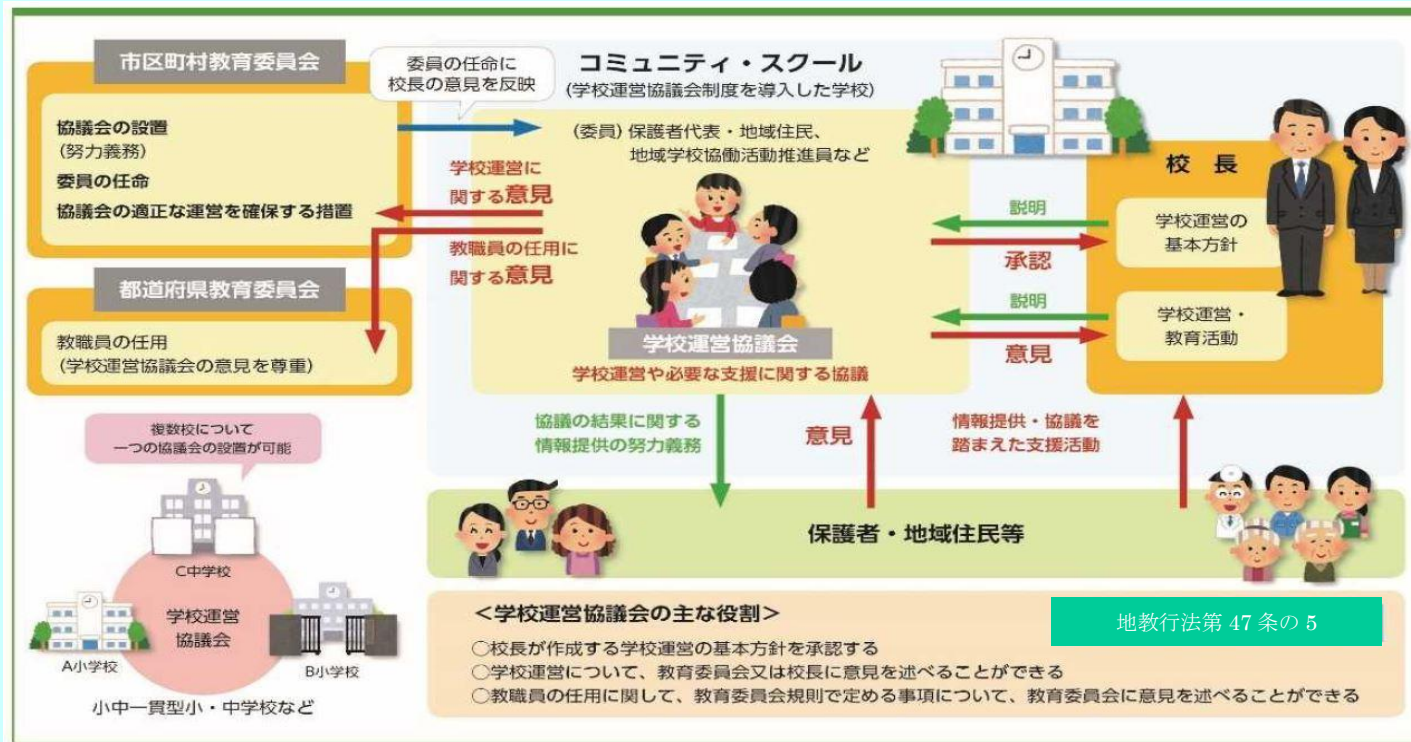


岩手県内では、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入する市町村や学校が増えてきています。このリーフレットでは、「コミュニティ・スクールの仕組み」や「期待される効果」等についてお知らせします。

岩手県教育委員会

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)とは？

【コミュニティ・スクールの仕組み（文部科学省資料より）】



Q コミュニティ・スクールとは何か？

A コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置した学校のことです。学校運営協議会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5」に基づき、学校運営に関することについて広い関係者で協議し、学校運営に保護者や地域住民の声を積極的に生かし、学校が地域と一体となって特色ある学校づくりを進める学校の体制です。

Q 学校運営協議会委員はどんな人で構成されるのか？

A 学校運営協議会は、頼もしい学校の応援団の役割を担う組織であることが期待されています。そのためには、PTAの範囲にとどまらない地域全体に目を向ける必要があります。学校運営協議会の委員は、校長の意見を反映し、教育委員会が任命します。人数や構成等は、学校や地域の実情に応じて幅があります。

＜委員構成の例＞

- 自治会代表 ・ 公民館代表 ・ PTA代表 ・ 地域学校協働活動推進員（コーディネーター）
- 教育振興運動実践区代表 ・ 婦人会代表 ・ 青年会議所代表 ・ おやじの会代表 ・ 同窓会代表
- 伝統芸能保存会代表 ・ 民生委員代表 ・ 接続する学校の校長 ・ 当該校の校長 など

Q 県内にコミュニティ・スクールはあるのか？

A 令和元年5月1日現在において、6市町村34校でコミュニティ・スクールを導入しています。このほか、8市町村で令和3年度までに導入することで準備が進められています。（令和元年11月現在）導入市町村や学校は全国的に増えています。今後、県内でも増えていく見通しです。対象となるのは、公立学校（幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高校・特別支援学校）です。

＜小学校・中学校・義務教育学校におけるコミュニティ・スクールの数（R1.5.1現在）＞
全国：6767校（24%） 岩手県：34校（7%）

具体的にどのように機能するのか？

1【知る（情報共有）】

学校や地域での児童生徒の実態から、目指す目標やビジョン、直面している課題等の共有を図ります。

【例えば・・・】

- ・地域のことをもっと好きになってもらいたいなあ。
- ・自分に自信をもって、堂々と表現できる人になってもらいたいなあ。
- ・人を大切にできる人になってもらいたいなあ。

【例えば・・・】

- ・子供たちの自己肯定感が高まってきました。地域の方との触れ合いにより、様々な方から認められたからではないでしょうか。次年度は・・・。

4【振り返る（評価）】

今年度の取組を振り返るとともに、次年度に向けて、目標の修正、手だての工夫、活動の吟味・精選等を図ります。

2【考える（熟議）】

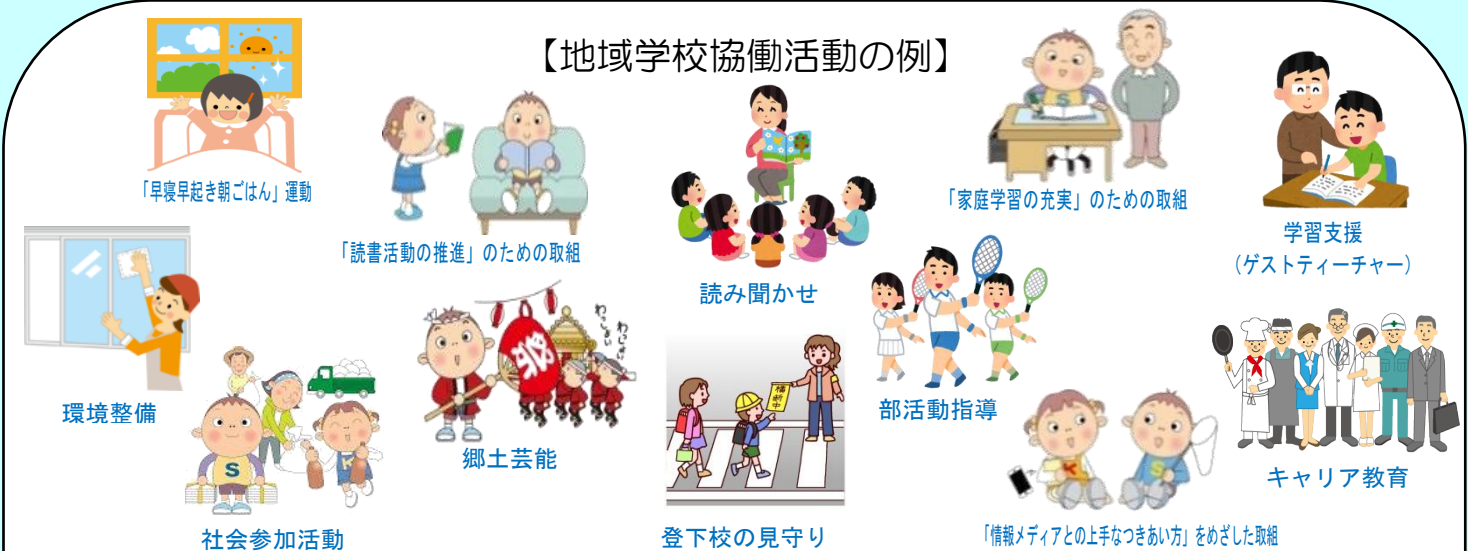
目標やビジョンの実現・課題の解決に向けた効果的・効率的な方策・取組（地域学校協働活動）について話し合います。

【例えば・・・】

- ・地域の歴史に詳しい方がいるので、総合的な学習の時間でゲストティーチャーになってもらうといいのでは。
- ・地域課題の解決に向けて考えた生徒のアイデアを、地元企業や行政等との連携により実現できないだろうか。

3【実行する（協働）】

地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民の力を生かし、様々なかたちで「地域学校協働活動」に取り組みます。



地域学校協働活動とは、登下校指導、校庭整備、各教科等の学習支援、地域の資源回収、地域伝統行事への参加等、**地域と学校**が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な**活動**のことです。本県で従来から取り組まれている教育振興運動の内容もこれにあたります。

地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等が活動に関わることで、特色ある学校づくりが進むとともに地域の活性化（地域づくり）への貢献も期待されます。

「知ること・関わること」が学校への関心や当事者意識を高め、地域全体で子供の成長を支える機運を高めます。